****
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」　第 137 号
−環境・農業・食べ物など情報の交流誌−
2004.07.01（木）発行　　山崎農業研究所＆編集同人
＜キーワード＞
環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所＆『電子耕』編集同人が編集・発行。
http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_index.htm
**********発行部数　1612　部**********

□　目　次　　□----------

＜山崎農業研究所情報＞
◇2003 年度（第 30 回）山崎農業研究所会員総会・
　第 29 回山崎記念農業賞贈呈式（福井県　鋸谷　茂氏）
＜今週の提言＞山は畑でない　小泉浩郎
＜読者の声＞益田さんから；長谷川さんから；丹羽さんから
＜山崎農業研究所新刊案内＞
増井和夫著『日本畜産再生のために―飼料構造と地域の視点から』
＜79 歳の意見＞戦争への道を心配する主婦たち　原田　勉
＜中学生に環境問題をどう教えるか？・７＞
環境教育は「スローシンキング」のトレーニング　環境クラブ・増山博康
＜日本たまご事情＞Ｓｔｅｖｅ　Ｌａｃｙの死　愛鶏園・齋藤富士雄
＜「電子耕」が本に載りました＞原田　勉
＜農文協図書館情報＞農文協図書館・原田太郎
＜編集後記・同人の近況報告＞６月 17 日〜６月 30 日

＜山崎農業研究所情報＞

◇2003 年度（第 30 回）　山崎農業研究所会員総会
日　時　　2004 年７月３日（土）13：00〜17：30
場　所　　太陽コンサルタンツ（株）３Ｆ会議室
　　（新宿区四谷３丁目５番地不動産会館）
全体プログラム
　１、総会報告（2003 年度活動報告、規則制定、2004 年度活動計画、その他）
　２、第 29 回山崎記念農業賞贈呈式：福井県　鋸谷　茂氏
　　自然の摂理に学んだ鋸谷式新間伐・育林法は、健全な森林空間を

取り戻しながら、良質の材を産み出す画期的な技術体系と高く評価
され多くの支援者を得て確実に定着しつつあります（表彰理由から）

****
記念フォーラム（15：00ー）
「国民の森林づくり：その目的と技法を問う」
・・・山は畑でない。山の木は畑の作物とは違う。・・・
・・山の論理から改めて木と森林との付き合い方を考える。・・

「国民の森林づくり：現状と課題」山本千秋氏（東京林業研究会代表）
「自然の摂理に学んだ新間伐・育林法」鋸谷　茂氏（受賞者）
「鋸谷式新間伐・育林法の革新性」大内正伸氏（イラストレーター）
「森林との新しい出会い」同上
会員以外の皆さんの参加を歓迎します。（資料・御茶代 500 円）

【問い合わせ先】
160-0004　東京都新宿区四谷３-５太陽コンサルタンツ内　小泉浩郎
電話 03-3357-5916　FAX 03-2257-3660
k.koizumi@tayo-co.jp

＜今週の提言＞山は畑でない

「山は畑でない」と鋸谷茂さん（第 29 回山崎記念農業賞）はいう。そんなことは、いわれなくても分かる。なんで今更なのか。「畑でない山を戦後、畑にしてしまった」。畑にしたらそれなりの管理が必要だが、「放置されたまま、山は病み、死にかけている」と話を続ける。どういうことか。

日本の国土の 67%は、森林で覆われている。その森林の約 40%が、人の手で植えられたスギやヒノキなどの人工林だ。これが鋸谷さんのいう畑の論理の森林なのだ。人工林を畑と見るなら、当然、間引き（間伐）、除草（下草刈り）、整枝選定（枝打ち）など定期的な管理が必要だ。

だが、その大事な仕事がなされていない。かつては、金になった山が、需要の後退、外材の輸入で、手を入れても金にならない山になってしまったからである。その結果、人工林は、遠くから見れば緑豊だが、中に入れば瀕死の瀬戸

際にある。

　混んだ状態の森林は、木はモヤシ状態（線香林)、暗い地面は下草も生えず、土は痩せ侵食が進んでいる。これを「山は病み死にかけている」というのだ。死にかけている山をどう生き返らすか。「山は畑でない」その原点に返り、山の論理で息をとり戻すしかない。それが鋸谷式間伐・育林法である。

　木が混めば、弱い木は自然に淘汰される。それを意図的（混交林再生）に後押しするのが伐リ置き間伐であり、競争の中で負ける立ち枯れ現象を強制的に進めるのが巻き枯らし間伐である。「山の生態の回復は、山の生態の力を借りる」。これも氏の言葉である。

小泉　浩郎
山崎農業研究所事務局長
y.noken@taiyo-c.co.jp

【参考】
鋸谷茂・大内正伸共著
『図解 これならできる山づくり 人工林再生の新しいやり方』
発行：農文協　価格：￥1,950
http://www.ruralnet.or.jp/books/2003/54002127.htm
http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/4540021273/
共著者である大内正伸さんの HP。鋸谷式間伐法の情報が充実している
http://tamarin.cside21.com/index.html#Anchor206721

＜読者の声＞

=-

●06/17 益田昭紘さんから：雀とカラスに責任転嫁

　最近の読売新聞に、この春発生した鳥インフルエンザの発生源は雀かカラスが原因という最終原因結果が発表されそうだという報道がありました。自然保護団体から反発があるでしょう。雀とカラスに原因を持っていったら雀とカラスがかわいそうですよ。

今回は全国で３件の発生がありました。雀とカラスが原因ならもっとたくさんの養鶏場から病気の発生があって当然です。わが家も養鶏をやっており、アイガモ農法にも取り組んでおりますから緊張していますが、あまり早とちりもいけないと思っています。

私は数年前、長男が中学生の頃、バス旅行で富士山登山に行ったことがあります。ああいう旅行では８合目で仮眠して山頂でご来光を迎えるのが一般的なコースです。私は、その仮眠小屋で息苦しい経験をしました。バタリー鶏舎に人間が入ったようなのもで、多人数が入り込み、高度もあるので酸素も薄いはずです。息苦しいので広間に戻り、ビールを飲んで朝を迎えました。

富士山の山小屋と鳥インフルエンザが発生した養鶏場には似たような環境があったのではないでしょうか。発生した養鶏場の環境、鶏の健康状態、それぞれに問題があったのではないでしょうか。発生した養鶏場には申し訳ないが、雀とカラスなど野鳥に責任を転嫁してもらっては問題です。

そういうことを考えながらアイガモ水稲のネット張りに体をむち打っております。

益田　昭紘
山崎農業研究所会員・山口県菊川町で有機農業実践

=-

●06/21 長谷川さんから：

「桜隊原爆忌の会」の長谷川です。旅の友の紙面でお元気そうな原田さんにお目にかかれてとてもうれしく思いました。

また＜79 歳の意見＞戦争への疑問はあったか？を読ませていただいて、もの心ついたころ母に「どうして大人はあの戦争に反対しなかったの？」と聞いたときの母の言葉を思い出しました。

「何かおかしい、おかしいと思っていたのだけれど、気がついたらものが言えない雰囲気になっていて、あっという間に戦争になってしまった。」「戦争をしようとする人たちは、まず大義名分を作り上げ、法律を変え、教育の場で啓蒙し、マスコミを使って真実を隠し、力を持って押さえつけ気がついたとき

には言いたいことも言えないようにしてしまう。」

　９３歳のその母が「太平洋戦争の前にそっくりになってきている」と心配している。今年は平成１６年ではなく昭和１６年か？といわれた方がありました。あの戦争の辛い体験と反省から生まれた、憲法９条の改悪がかかった今度の選挙、大切な１票ですね。

今年の「桜隊原爆忌の会」のごあんないをＨＰにのせました。平和を願う広島の中学生たちが作った「ねがい」という歌を取り上げます。インターネットを通じ世界に発信し、２６カ国３０言語で唄われています。

「桜隊原爆忌の会」長谷川
「夢のかけら」　http://www.h3.dion.ne.jp/~nanchan
「桜隊」　　　　http://www.h6.dion.ne.jp/~skr-tai
「広島から発信する平和―ねがい」http://2003japan.jp/negai/index_j.html

=-
●06/21 丹羽敏明さんから：

　１３６号の配信有り難うございました。

　「電子耕」に寄稿させて頂いたお陰で、復員して間もない昭和２３年に私が編集・制作した「新日本少年」という劇画とマンガ雑誌の創刊号に出会うことが出来ました。当時印刷した部数は確か 1000 部ぐらいで、私は制作者でありながら、自転車の荷台に出来立ての本を積んで、問屋へ卸して歩いた覚えがあります。返本もかなりあったので実際に売れたのはそんなに多くはないので、その創刊号を持っていた人がいたのはまさに奇跡としか言いようがありません。

　私の手許にも創刊号はなく、もう出会うこともあるまいと諦めていたので、奇遇に驚くと共に亡くなったわが子が蘇ったような無上の嬉しさを味わいました。なんでも昭和２０ー３０年代に出版された少年・少女雑誌を集めて資料化しておられる福島さんという方が、私の雑誌も持っておられたそうです。それらの雑誌類を資料化したものを材料に、さらに何らか企画化を考えている出版社のスタッフの方が、私の名前をインターネットで探したところ「電子耕」に私の戦争体験記が掲載されていることをつきとめられ、私を探し当てたというわけです。

この雑誌は、あるスポンサーがあって発行できたのですが、そのスポンサーは出版には全くの素人で、当時は紙に印刷すれば儲かる時代で、米屋さんや炭屋さんなどでお金持ちが出版を手がけ、返品がごそっと来てびっくりし手を引くというケースが多かったのです。私の場合もそのでんで、いわゆる３号雑誌であえなく消滅しました。私にとっては青春時代のよき思い出でした。

＜山崎農業研究所新刊案内＞
増井和夫著『日本畜産再生のために―飼料構造と地域の視点から』

山崎農業研究所所報『耕』の前編集長であった増井和夫さん（2003 年５月死去）の遺稿集にあたる『日本畜産再生のために―飼料構造と地域の視点から』が６月 30 日に刊行された。

2000 年の口蹄疫、2001 年のＢＳＥの発生は日本畜産に大きな打撃を与えた。輸入品と比べて多少高くとも高品質で安全・安心という国産品の優位性は根底から覆されることとなった。その背景には、生産性の極度な重視により、濃厚飼料の大半のみならず粗飼料の相当部分を輸入に依存するという、歪んだ飼料構造がある。

増井さんは草食家畜、とくに牛の放牧を基本にした「土地利用型畜産の再生」を提唱する。日本は草資源大国であるが、地域資源の活用は自給率を向上させるし、各地で盛んになりつつある「山地酪農」や「育林放牧」「耕作放棄地放牧」などは、中山間地域の振興だけでなく、畜産糞尿公害の解消や環境保全・景観維持など畜産による多面的機能の発揮にもつながる。もちろん稲ホールクロップサイレージの活用など地域内での耕畜連携もかかせない。

こうした土地利用型畜産の再生こそ、家畜の健全な飼育、ひいては消費者の信頼の回復を生むというのが増井さんの主張である。消費者のみならず地域からもよろこばれる畜産のあり方を追求している畜産関係者や行政担当者、さらには食の安全・安心に関心をもつ消費者に一読をすすめたい。

『日本畜産再生のために―飼料構造と地域の視点から』は山崎農業研究所発行、農山漁村文化協会発売。B6 判、250 頁、2,100 円（消費税込み）。

本のご注文は
山崎農業研究所
http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_index.htm
農山漁村文化協会
http://www.ruralnet.or.jp
へお願いします。

＜79 歳の意見＞戦争への道を心配する主婦たち

６月１６日、私は地元のひばりが丘公民館で戦時体験の話をした。西東京市の市民に全戸配布する「公民館だより」８月号に載せるインタビューである。主旨は田無・谷戸地域の戦時中の体験を、現在の住民に知らせるためであった。
私は、前号で紹介した中島飛行機田無運転工場に勤務していた体験を１時間話してそれで終わりと思っていた。
しかし、「公民館だより」の編集者たち７人のうち５人は主婦であったが、質問の中心は私の松山航空教育隊の軍隊生活や仙台空襲で逃げ回ったことや敗戦までの苦い戦争体験におよび、さらに１時間余り話を求められた。

そして、極めつけは「戦争で一番印象に残っているのことは何か」という問であった。
詳しくは、ホームページ「戦争を語り継ぐ　６、７、８」で述べている。
http://nazuna.com/tom/war/

改めて、一言で言えば、「軍隊とは、戦争のために、人間性を喪失させる組織である」特に戦争末期には、政治指導者と軍上層部の腐敗と混乱が下級兵士や国民の多くに大きな被害を与えていると答えた。

なぜ、聞き手の主婦がかくも熱心に戦時体験に興味を示しているか。
イラク戦争を契機に日本の現政権が平和憲法を無視し、自衛隊を海外派遣し、今度は多国籍軍に参加するという。今度の国会で有事法制が通過させ、なし崩しに、しかし着実に戦争への道を推し進めてているという心配がある。
このまま進めば、やがてわが子が戦争に駆り立てられる心配である。母親の立場からの心配である。

その心配をどうするか、戦前と違うところは、言論と表現の自由があること。

国民の意志を選挙で示すことができることである。こんどの参議院選挙はまさに戦争への道か否かの瀬戸際にある重要な機会であると思う。

山崎農業研究所会員・『電子耕』編集同人
原田　勉
tom@nazuna.com
http://nazuna.com/tom/

＜中学生に環境問題をどう教えるか？・７＞
環境教育は「スローシンキング」のトレーニング　環境クラブ・増山博康

理科、環境教育について考えていて、「スローライフ」ならぬ「スローシンキング」に思い当たりました。

だいたい、モノゴトというのは、右から左にすぐ答えが出るものではないのですが、大衆消費社会のサービスに慣らされていると、何かすぐに出てこないのは「悪いこと」みたいな感覚になってしまうのかも知れません。

子供も大人も、だんだん、「葛藤」に弱くなってきている・・・？

環境クラブのワークショップで、「土」と「砂」はどう違うか？　と聞かれた子供は、一生懸命考えます。この瞬間、「正解は何だろう？」、「自分の意見は間違いじゃないか？」と言うような葛藤が子供の内面に生まれています。

そして、例えば、「土は濡れているが、砂は乾いている」と言うような答えをした子供に、「じゃあ、砂を濡らしたら、土になるの？」と突っ込む。

ここで、「濡れたら土になる」と言う子供と「濡れても砂は砂」と言う子供に分かれますが、重要なのは、最初に「自分が言った」と言う事実です。突っ込まれることによって、子供は、自分が言ったことと「現実」の矛盾に気付き、新たな葛藤を抱えます。

だいたい、自然科学や環境問題での「発見」と言うのは、一見無関係に見えるいろいろな事実を結びつけてみた時に見えてきたものであって、右から左に出てくるものではない・・・。

理科、環境教育では、対話、仮説の提出、実験、観察などによって、発見者の思考を追体験することで、「スローシンキング」のトレーニングをする。これが、大人・子供ともに「葛藤」に弱くなっている現実への処方センのひとつだと思います。

環境クラブ　増山　博康
http://www.ecoclub.co.jp

＜日本たまご事情＞Ｓｔｅｖｅ　Ｌａｃｙの死

日本の新聞にも小さく死亡欄に取り上げられていたが、レーガン元大統領の亡くなった前日に、ソプラノサックス奏者のＳｔｅｖｅ　Ｌａｃｙはアメリカボストンで亡くなった。享年７０歳であった。
予定では、６月１９日私どものホールＥＧＧ　ＦＡＲＭで彼は演奏し、あとでささやかな誕生パーティを開く予定であった。

カミさんとその若いＪａｚｚ仲間が企んで、初めてＳｔｅｖｅ　Ｌａｃｙを ＥＧＧ　ＦＡＲＭに呼んだのは１９８６年なので、もうかれこれ２０年前になる。その間８回ほどＥＧＧ　ＦＡＲＭで演奏をしているから、とても縁の深い人だ。

死の直前まで日本での演奏に意欲を燃やし、飛行機の切符を手配していたほどだ。そのプロ根性には頭がさがる。
Ｓｔｅｖｅ　Ｌａｃｙは派手なことが嫌いだ。本当に彼の音楽が好きな人の為に演奏する。たとえ聴く人が少数でも、決して手を抜かない。私は彼の音楽のことは良く分からないが、そういう事は分かる。

カミさんが今回Ｓｔｅｖｅ　Ｌａｃｙの演奏計画を立てていた。それが中止になり、あちこちに迷惑をかけたようだが、音楽仲間は有難い。了承してくれ、協力してくれた。
Ｓｔｅｖｅ　Ｌａｃｙの穴があいたＥＧＧ　ＦＡＲＭでのコンサートはピアノの山下洋輔とサックスの梅津和時がやってくれた。

演奏後のささやかな追悼会では、涙ながらにＳｔｅｖｅを語る人たちが多か

った。Ｓｔｅｖｅとはそんな男である。

齋藤　富士雄
（株）愛鶏園
http://www.ikn.co.jp/

＜「電子耕」が本に載りました＞原田　勉

以前、『メールマガジンの楽しみ方』を日刊メルマガ Webook #2002-108
http://webook.hp.infoseek.co.jp/2002.11/2002.11.04.htm
でご紹介していただいた、

松山真之助さん
http://webook.tv/

が、この度、新刊を出され、その 104ー106 ページに、
「年は関係ない。情報はいくつになっても出せるものだ。79 歳のチャレンジ」
と題し、「電子耕」と私のことを掲載していただきました。
ありがとうございました。

ここにご紹介いたします。

『早朝起業 / 「朝５時から９時まで」の黄金時間を自分のために使う方法』
http://www.s-book.com/plsql/com2_detail?isbn=439661215X
■出版社： 祥伝社
■著者名： 松山真之介
■ISBN コード： 439661215X
■判型/頁 ： 四六判ソフト /208 頁
■定価： 1,365 円（税込）
■発売日： 2004/06/15

【この本の内容】

〈朝の生産性〉はふだんの 6 倍！
航空会社の要職にありながら

メルマガ発行、講演、執筆と人生大回転。
時間活用の達人が教える
「早起き・パーソナルブランド構築」への道

＜出社前の 4 時間が、「夢」を「現実」に変える＞
●早起きは年間で 70 日分もの「可処分時間」を生む
●始発電車は「動く書斎」になる
●成功するメールマガジンの立ち上げ方
●「事業計画」に役立つ「SWOT 分析」、「バランス・スコアカード」とは
●会社という「インフラ」を、どう利用するか
●「好きなこと」を「ビジネス」につなげた、時間活用の達人たち

【著者紹介】
航空会社部長職。1979 年名古屋大学工学部電子工学科修了。会社勤務のかたわら、7 年ほど前から『Webook of the Day』という書評メールマガジンを毎日発行。また、「バランス・スコアカード（BSC）」という経営戦略手法を、著書や講演、メールマガジンを通じて紹介している。ラジオ番組「ビジネスブック・ラジオ」のパーソナリティも務める。2004 年より金沢工業大学大学院の客員助教授に就任。著書に『バランス・スコアカードの使い方がよくわかる本』（中経出版）、『ねずみとサンタクロース』（英治出版）、『あした読まぁーにゃ 54 冊の奇跡』（まぐ文庫）がある。

（出典：祥伝社サイト）
http://www.shodensha.co.jp/

＜農文協図書館情報＞（6/28 更新）

★出版ダイジェスト　農業書センター開設１０周年記念号　贈呈
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/sp/200406/news1.html
ご希望の方に贈呈します。

農文協図書館とも密接な関係にある農業書センター
http://www.ruralnet.or.jp/avcenter/
の詳しいご紹介です。　タブロイド判モノクロ 10 頁

編集構成は以下の通りです。

１面、農業書センターに来ると気持ちが落ち着く理由
ここは人のいとなみに関する書物センター

・専門店が長続きしない時代に１０周年
・ここにしかない深くて広い品揃え
・「農」は人間の衣食住すべてに関わる

執筆：フリーライター　永江　朗　（ながえ　あきら）
http://www.web-across.com/special_issue/d6eo3n00000074zk.html

２・３面、農業書センター４つの秘密
・評判の秘密　その１：商品構成/品揃えは天下一品！利用者がビックリ！
/新しい食文化の棚つくり
・評判の秘密　その２：独自の仕入れとリスト発行
/高い評価の「一般に流通していない農業書リスト」
・評判の秘密　その３：通販と流通
/居ながらにして届く取り寄せシステム
/図書館整備から大学のテキスト採用まで
・評判の秘密　その４：送料無料の会員制通販
/１０年連続で売り上げを伸ばす農業書専門店
/店内イラスト

４・５面：がんばれ！農業書センター　　利用者から期待の声
・よそで手に入らない本も届けるサンタクロース（東京農業大学）
・新たな農業の担い手を育てる豊富な情報提供に期待
（山形県立農業大学校）
・通って８年。目当ての本はたいてい見つかる（「インサイダー」編集長）
・農に注目が集まるムーブメントの芽に（コピーラーター）
・センターは私の本棚。園芸書をさがすならココ。（園芸研究家）
・正しい情報をいち早く届けたい！（長野県・海野薬品（株））
・私は「田舎の歯医者」さん。待合室に置きたい本。（広島県・田頭歯科）
・仕事は看護師。ゆっくり本を捜すヒマがなく（福島市）
・農業・農村のコンサルティングに欠かせない情報源
（太陽コンサルタンツ（株）環境資源事業部）

http://www.taiyo-c.co.jp/

◆２１世紀は農業書の時代：農業書協会会長・（株）養賢堂社長
http://www.ruralnet.or.jp/avcenter/kaiin13.html
◆本の入手が不便な地域の読者のための通販サービス「田舎の本屋さん」
http://www.ruralnet.or.jp/shop/
ご利用のすすめ：
＊近日ホームページリニューアル！ご購入が簡単になります。

６・７面：もう一つの読者サービス
６０年間蓄積した書籍資産・情報力・企画制作力を提供

＜地域に根ざした情報整備の支援＆提供事業＞
農文協図書館（新刊書から戦前の資料まで農と食の専門図書館）
ルーラル電子図書館
http://lib.ruralnet.or.jp/
マルチメディアセンター
http://mmsc.ruralnet.or.jp/

◆地域とユーザーの視点から新コンテンツを開発・提供
「食・農データサービス」事業
◆農文協写真データベース公開！マルチメディアセンターに開設
６月２４日から開始しています。
http://mmsc.ruralnet.or.jp/photodb/

８面、祝　農業書センター開設１０周年　各社、この一冊

９面：「一般に流通していない農業書リスト」ダイジェスト
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/sp/200403/news2.html

１０面：「農業技術体系」「農業総覧」ご案内
http://www.ruralnet.or.jp/taikei/

＜（C）出版ダイジェスト委員会 2002＞

在庫がなくなりしだい贈呈は終了させていただきます。

【お申し込み先】

財団法人　農文協図書館
〒177-0054 東京都 練馬区 立野町 15-45
TEL 03-3928-7440 FAX 03-3928-7441
E-mail: nbklib@mail.ruralnet.or.jp

◆2004.5.1～5.31 登録の新規収蔵図書
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/01new.html

◆話題の図書：
「世界の食文化」（全 20 巻予定）
http://www.ruralnet.or.jp/zensyu/worldfoods/
第 12 巻『アメリカ』
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/03wadai021.html

本間千枝子（作家）・有賀夏紀（埼玉大学）著
先住民アメリカ・インディアンの食／フロンティアと南部プランテーション
／移民たちのアメリカン・テイスト／ジェンダーと食文化
／コカコーラ・マクドナルド・ケロッグ／ファーストフード
／世界の食文化集散地・アメリカ

2004 年 04 月 23 日 農山漁村文化協会　発行
・目　次
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/03wadai021m.html

◆寺尾五郎文庫
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/090teraobunko.html
・目録その２（20 頁）（その５まで順次公開してまいります）
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/list/090terao/tg39/01.html
＊個人文庫は館内閲覧・コピー・FAX サービスのみ利用可能です。

農文協図書館　　IT 担当　原田太郎
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/

＜編集後記・同人の近況報告＞（６月 17 日〜６月 30 日）

わが国の終戦直後、子供達には、１枚のチョコレートで鬼畜米兵が、親切な隣のお兄ちゃんになっていた。それをみて竹槍玉砕を覚悟していたお母さんたちから、遠巻きながら笑みがもれた。みんな同じ人間なのだ。何のために憎しみあったのだろう。

天皇の玉音放送に涙を流した大人たちにとっては、耐えがたい光景であったろうが、１枚のチョコレート、１杯の粉ミルク、１個のコッペパンから、子どもたちは、豊さや自由や文明そして平和に夢を膨らました。

イラクの戦闘に巻き込まれて負傷したモハマド・ハイサム・サレハ君（10）が、来日して目の手術をした。「イラクには僕みたいな子が、いっぱいいる」。その子たちに明日への夢を抱かせるのが本当の人道支援のような気がする

（山崎農業研究所事務局長・小泉浩郎）

◎お願い「＜読者の声＞の投稿規定・メールの書き方」

１、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

２、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

３、１回１テーマ、10 行位に。

４、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

５、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

◎投稿アドレス変更のお知らせ

電子耕への投稿アドレスは、発行人の変更に伴い、

y.noken@taiyo-c.co.jp

となっております。投稿される方はこちらのアドレスにお願いします。

次回　138 号の締め切りは 7 月 12 日、発行は 7 月 15 日の予定です。
　最後まで読んで頂き有り難うございました。今後もよろしくお願い致します。

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

書名：岩波アクティブ新書 45『メールマガジンの楽しみ方』
著者：原田　勉　定価：735 円　発行日：2002 年 10 月 4 日
発行所：岩波書店　ISBN4-00-700045-X
まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら
http://nazuna.com/tom/book.html

『電子耕』から大切なお知らせ
http://nazuna.com/tom/denshico.html
http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag.html
＜本誌記事の無断転載を禁じます＞

****
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」　第 137 号
バックナンバー・購読申し込み／解除案内
http://nazuna.com/tom/denshico.html
http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag2.html
2004.07.01（木）発行　　山崎農業研究所＆編集同人
mailto:y.noken@taiyo-c.co.jp
**********ここまで『電子耕』**********

.